

牛の生理に合わせた



搾乳とラグタイム

乳房炎の少ない、体細胞数の低い牛群を目指し、同じ牛たちからより多くの利益とより安全な食品を得るために、さらに搾乳がよりハッピーな仕事となるよう、搾乳手順のポイントを分解しながら紹介していきたいと思います。

<改めて、搾乳という酪農における基本の見直し>

酪農を営まれている皆さんには、これまで耳がタコだらけで何も聞こえなくなるくらい搾乳に関しての情報は提供されているでしょう。しかし、それでも長年続けられている方法に変化をつけるのはなかなか難しく、またポイントや注意点と言われるものは数多く、一度にすべてを見直すことは難しいのではないかと思います。

<基本的搾乳手順>

- ・先搾り
- ・プレディッピング
(コンタクトタイム：20~30秒)
- ・清拭と乾燥
- ・ミルカー装着、機器調整
- ・離脱
- ・ポストディッピング

60~90秒のラグタイム
(先搾り~装着のラグ)

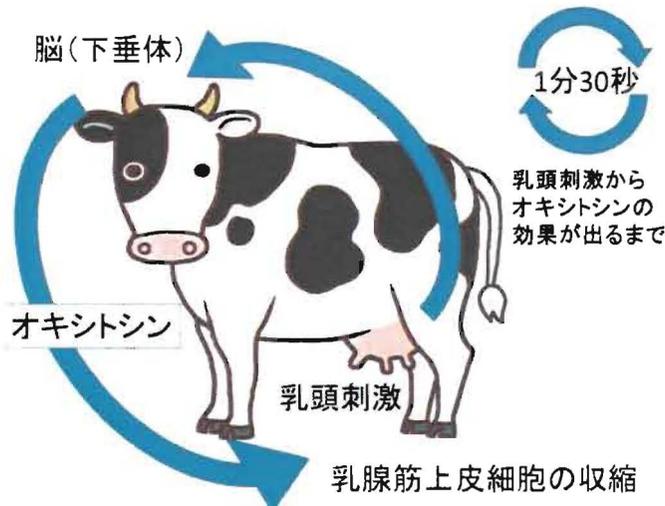


◇上記の手順を【正しく=牛の生理に合わせて】行うために、まず今回は2つのことに注目します！！

- ① 正しい乳頭刺激 (先搾り)
- ② 正しいラグタイム (ユニット装着)

まずは乳頭をしっかりと刺激することと、動作の時間間隔について意識してみてください。

試しに一度、ストップウォッチをポケットに搾乳してみませんか？



これらをふまえて、基本的な搾乳手順を見直します。

<基本的搾乳手順>

◆先搾り

目的

- ・ **良い乳頭刺激**
- ・ 乳房炎の発見

(1kg 多い乳量、新規感染の予防、搾乳時間の短縮)

強く、2 から 3 回の先搾り (乳頭刺激) → より多いオキシトシン → 強い乳腺細胞の収縮 → 乳汁排出の増加 → 早い搾乳 → 健全な乳頭口 → 乳房感染の減少 → 乳房炎と体細胞数の減少 → 酪農家の利益
目安: 装着時に乳頭が牛乳によってプクッと膨らんでいる。

◆プレディッピング

乳頭全体を確実にディッピング

『20~30 秒のコンタクトタイム』をもつ: ディップした薬剤が付着している時間

◆清拭と乾燥

- ・ 一頭一布以上での清拭。
→ 使い捨てペーパー or 布タオル
→ 布タオルは消毒、乾燥およびローテーションに注意。
- ・ 消毒された搾乳手袋 (搾乳中も定期的に洗浄)
- ・ きちんとふき取る → 強く、ねじり込むように!!
細菌の感染は乳頭口から!

オキシトシンは刺激から 10~12 秒で脳から放出。乳腺へ 20~25 秒で到達。20~30 秒で収縮開始。
→ オキシトシンの効果が出るのは 60~90 秒後 (半減期は 4 分。遅すぎると効果はなくなる。)

◆ミルカー装着、機器調整

ラグタイム: 先搾りからユニット装着までは 60~90 秒

- ・ 乳房に垂直に装着
- ・ エアーを吸わせない
- ・ 調節フック、ひも、ワイヤーを使ってチューブが牛体に沿うように!!

適切な刺激と十分なラグタイムで、乳量の増加、体細胞数の減少、搾乳時間の短縮という副収入を得られる。

◆離脱

- ・ マシンストリッピングはしない
- ・ 後搾りは残乳が 450ml 以上ある場合のみ。

残乳が 4 分房で 250ml 以下なら搾り切れている
残乳が 20~30ml では過搾乳である

◆ポストディッピング

- ・ 搾乳後速やかに。
- ・ 十分な量を十分な面積に。

細菌の餌となる乳汁を洗い取り、乳頭口が閉じる前に殺菌する

特にタイストールでは次々と先搾りしていくなど、ミルクカー装着まで時間がかかりすぎる場合が多くみられます。また、個別退出できるタンデムやアブレストではラグタイムが短くなりがちです。ヘリングボーンやパラレルなどの一斉退出するパーラーでは両端で短すぎるもの長すぎるものが出てくる場合がみられます。とくに先搾り役とユニット装着役が役割分担されていると、上記の特徴が極端に顕れがちです。

出来るだけ一人が責任をもって、3～4頭ごとに先搾りから装着までを行うことをお勧めします。役割分担で行う場合は、とにかく早く装着するのではなく、良いタイミングでの装着が結果的に搾乳を早く終わらせられることを搾乳者同士で話し合い、理解に努めましょう。

酪農において、農業の収穫という“喜びの瞬間”が日々の搾乳作業です。適切な乳頭刺激と適切なタイミングでの装着で、早い搾乳、乳量増加、健全な乳頭口、高品質な生乳、牛にも人にも嬉しい搾乳を手に入れましょう！！これらは数ある搾乳のポイントのひとつです。これだけでは変わらないことももちろん多くあります。最終的に全体を見直せるように、これからも他のポイントを紹介していきたいと思います。

参考

搾乳方法の見直し編 デーリィ・ジャパン社

乳房炎との戦いに打ち勝つために デーリィ・ジャパン社

THMS 黒崎講演資料



朝晩はすっかり冬の空気。昼間も風は冷たく澄んで、こういう雪が降る前の、身体が寒さに慣れていく途中が一番寒さを感じるような気がします。真冬よりも11月12月の方が風邪をひきやすい季節ではないでしょうか。皆さまも冬支度を進めつつ、元気に冬と年末年始を迎えられるようご自愛ください。

道路もそろそろ凍結が心配です。もちろんすでに冬タイヤではありますが、安全運転への心がけも冬仕様にして仕事に励みましょう。

地藏（てらうち）